



◀ 健苗育成に向けて要点を確認

健苗育成に向けて技術講習会を開催

稲作部会

稲作部会（堀内直富久部会長）は稲作作業の本格化に向け、育苗技術向上や栽培の注意点などを説明する、水稻育苗技術講習会を3月23日に開催しました。

管内の生産者約40人が参加した講習会では、同部会の大塚忠之能代支部長が「春作業も忙しくなってきた。苗半作と言われるように苗の出来が作柄に大きき影響する。この講習で一歩でも高いレベルの技術を習得してもらいたい」とあいさつしました。

山本地域振興局農業振興普及課の芳賀氏は「4～5月は気温が高めに推移する予報が出ているが、春は気温の変動

も大きいので極端に早い作業は控えてほしい」と呼び掛けました。

また、秋田県農業試験場生産環境部の高橋氏は、斑点米カメムシ類の防除対策に触れ「秋田県の27年産米の1等米比率は91.1%となったが、2等以下に格付けされたものでは、約65%が着色粒（カメムシ類）の被害となっている」とし、水田内の雑草の処理や畦畔除草の徹底、適期薬剤防除などの対策を説明しました。参加者は、本格的に始まる春作業の前に講師の話に耳を傾けていました。

初出荷へ向けて

りんどう部会

りんどう部会（菊地昇一部会長）は3月18日、新規栽培者を対象に能代市山谷地区の圃場で栽培講習会を開催しました。

生産者やJA、山本地域振興局職員など約20人が参加した講習会では、生育状況や今後の管理などについて担当者から説明を受けました。その後、部会長が先頭に立ち、りんどう株にトンネルをかけました。これは、株をトンネル被覆することにより萌芽期の温度を確保し初期生育を安定させることを目的としています。今年度初出荷となる新規栽培者は、りんどう栽培の技術向上に向けて熱心に講習を聞いていました。



▲トンネル作りを行う生産者



▲栽培のポイントを学ぶ生産者

県内トップの出荷量を目指す

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）による、スナップエンドウ栽培講習会が3月10日に生活総合センターで開催されました。生産者やJA、種苗会社など約30人が参加し、品種の特性や病害虫対策などについて説明を受けました。

種苗会社の担当者からは「発芽の適温は18～20℃で最低でも地温13℃は確保してもらいたい。また、着莢開始節位は8節をめやすとし、整枝や摘花を行う」など指導されました。スナップエンドウは高収益で取り組みやすい作物として、昨年から推奨している品目の1つです。今年度は、約1.9haの栽培面積で販売高7.55t、10,483千円を目指します。

